

## 送る言葉

新たな居場所でそれぞれ、自分の道を切り開いてください。

卒業、おめでとう。そのお祝いを昨年に引き続き、対面できてあげられず、申し訳ない気持ちでいっぱいです。許してください。

「コロナ」という言葉を聞かない日がなかった、この1年余り。皆さん、思い出に残っていることは何ですか？

当たり前が当たり前じゃない。それを実感させてくれたのが、この1年超の新型コロナのあたふた。でも、考え方を変えてみると、「そう悪いことばかりでもなかった」と思いませんか。確かに、それぞれ、いろいろありましたよね。

コロナとともに昨冬から本格化した就職活動を含む、新たな進路の準備。オンラインが中心で、初めてのことばかり。面接では、自分の姿を画面で見ながらの喋りで緊張したり、その緊張を緩和するために映ってる画面をちょっと小さめにしてみたり、写りが良くなるようにカメラを買い替えたり、色々工夫しましたよね。

新たな進路準備と同時並行で進めた卒業研究・論文書き。オンラインのゼミに慣れず、質疑応答がごちなかつたり、対面だったら当たり前の雑談がしづらかつたり、不便なこともいっぱいありましたよね。その一方で、遠隔面談は、移動時間を他の用事に使えるし、交通費も浮く。わざわざ大学に来なくてもいいので、時間の自由度が高まったり、悪いことばかりじゃない。

制限された部活・サークル活動。再開されたと思ったら、感染の拡大で再自粛。動きたいと思いつつも、動けない日々。そこでもそれぞれあれこれ考え、家でできる筋力トレーニングをしたり、新入生勧誘動画を作ったり、暗中模索したことと思います。そこには立ち止まったからこそ見えるものが何か、在ったはずです。

卒業してもワクチン接種が広がるのには、まだ半年はかかりますよね。その間に在学中も含め、やり残したこと・やりたかったことリストを作り、それぞれの新たな進路で実現してください。自分の道は自分で切り開くしかない。そのために、新たな居場所を愉しみ、できることにどんどん挑戦してください。

あらためて、卒業、本当におめでとう！ 皆さん、身体に気をつけて、これからもがんばってください。

令和3年3月25日

文学部長 水元豊文